

授業科目	NPO 論				単位	1		
履 修	選択	関連資格	保健師		ナンバリング	NU31504J		
開講年次	4	開講時期	後期	該当DP	DP2-1 DP3-2 DP4-3			
担当教員	雪松 直子							
授業概要	<p>在宅介護や地域包括ケアの必要性など、福祉の世界でも「NPO」という存在を意識する機会が増えてきましたが、その組織の特徴や実態、非営利における経営手法についてはまだ体系化が進んでおらず、社会一般の中での認知も低い状況です。</p> <p>本授業においては、ボランティアや趣味的なサークル活動とは異なり、市民が主体でありながら社会の公的サービスを担う事業を推進する NPO の事例を中心に取扱うことで、まずは具体的なイメージを共有し、そこからグループワークでの意見交換等を経て、NPO の本質に迫ります。</p> <p>授業が進むほど教員が解説する講義の割合は減り、演習への取り組みと発表など、学生主体の学びの場に移行する予定です。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. NPO の概念と特徴、また営利企業・地縁組織・ボランティア等との違いを説明できる。 2. 既存の医療・看護が担う領域と、NPO が担う領域の境界について自分の言葉で説明できる。 3. 社会システムを批判的な目でもとらえ、様々な社会課題に対して自分の意見を持つことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	40	0	0	30	30	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	10			5	10		25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)	10			20	10		40	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)	20			5	10		35	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
NPO の基礎的な概念と特徴を理解し、知識と事例を組み合わせ、他の人に説明することができる。 福祉の世界における NPO の存在意義に自分なりの意見を持ち、言葉にして語る事ができる。				NPO の基礎的な概念と特徴を理解し、知識か事例のどちらかの方法で他の人に説明することができる。 福祉の世界における NPO の存在意義を説明することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	テーマ:オリエンテーション/NPO とは何か 授業の進め方を確認し、NPO 関連の基礎的な前提知識を学ぶ。	講義	なし	90
2	テーマ:福祉の世界で活躍する NPO の事例 福祉 NPO の事例から、取り組む社会課題とその解決策を学ぶ。	講義 演習(グループ)	なし	90
3	テーマ:「悪の秘密結社」に見るビジョンとミッション 「正義」と「悪」の概念を、相対的価値観と視点によって捉え直す。	講義 演習(グループ)	予習:講義で取り扱う教科書の範囲を全て読んで来ること。	90
4	テーマ:「世界征服」というイノベーション 社会システムを良く変化させるために必要な、状況と要素を学ぶ。	講義 演習(グループ)	予習:講義で取り扱う教科書の範囲を全て読んで来ること。	90
5	テーマ:福岡の福祉 NPO による特別授業①(外部講師) ゲスト講師から、取り組む社会課題への想いや現場の声を聞く。	講義	予習:講義で取り扱う事例組織について、インターネット等で事業内容等を調べてくること。	90
6	テーマ:福岡の福祉 NPO による特別授業②(外部講師) ゲスト講師から、取り組む社会課題への想いや現場の声を聞く。	講義	予習:講義で取り扱う事例組織について、インターネット等で事業内容等を調べてくること。	90
7	テーマ:福祉 My ストーリー/Our プロジェクト チームで一人ひとりの想いを共有し、福祉プロジェクト案を作る。	演習(グループ)	復習:必要に応じて、授業時間内で作成したプロジェクトについてブラッシュアップを行う。	90
8	テーマ:プロジェクト発表会/まとめ 作成したプロジェクト案を発表し、相互にフィードバックを得る。 本授業で学んだ事を振り返り、今後の展望と共に総括する。	演習(全体) 講義	予習:これまでの授業全体を振り返っておく。	90
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				

20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	授業の中では、たびたびグループワークの時間を設けます。社会に「必ず正しい答え」というものはありません。常識に縛られずに、自由に自分の意見を発信してください。			
テキスト	『「世界征服」は可能か?』 岡田斗司夫・著 筑摩書房 2007 年 他、適宜プリント等を使用します。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『べてるの家の「非」援助論—そのままがいいと思えるための 25 章 (シリーズ ケアをひらく)』 浦河べてるの家・著 医学書院 2002 年 『安心して絶望できる人生 (生活人新書)』 向谷地生良・著 浦河べてるの家・著 日本放送出版協会 2006 年 『リハビリの夜 (シリーズ ケアをひらく)』 熊谷 晋一郎・著 医学書院 2009 年 『人を助けるとはどういうことか 本当の「協力関係」をつくる 7 つの原則』 エドガー・H・シャイン・著 英治出版 2009 年 『「生きづらさ」を支える本 (言視 BOOKS)』 自立支援センターふるさとの会・著 言視舎 2014 年 『雑誌「ヨレヨレ」』 宅老所よりあい 『DVD 見る当事者研究シリーズ Case1「水飲みが止まらない!」』 浦河べてるの家 2014 年			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	自分の日常で「これはおかしい」や「こうだったら良いのに」と思うことにアンテナを張り巡らせてください。社会の中で「普通」「常識」「当たり前」と呼ばれる事を疑ってみてください。そのうえで、さらに、疑問を疑問のままに終わらせず、「自分がアクションできる事はあるか?」というところまで考えるクセをつけておいてください。			
達成度評価に関するコメント	本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、知識の量や回答の優秀性よりも、「社会と自分のつながりを想像する力」「自分の意見を持ち言語化する力」の 2 点を重視します。			

